

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第 48 号 2001.6.1

発行
北海道ポーランド文化協会
〒060-0052
札幌市中央区南2東2
河合楽器製作所北海道支社
電話 011-231-8661
FAX 011-221-4936

知られざるポーランド(1)

小原 雅俊



ベラルーシに源流を持つナレフ川はビャウイストツクの近くを流れ下ってワルシャワの北で人造湖、ゼグジェ湖を作る。その後さらに南下してヴィスワ川に流れ込むところに、ワルシャワ郊外の原生林、カンピノス国立公園がある。遠い昔、留学時代に外国人学生のための遠足でだったと思うが、この湿地帯の方々にあるナチス・ドイツに抵抗したバルチザン戦の激戦地の跡とモギワと呼ばれる無数の犠牲者たちの墓地を訪ねたことがある。

留学時代に出版した私の最初の翻訳書となった『クリステイナの生と死』(たいまつ社刊。一九九六年に『クリステイナの手紙』と改題。恒文社刊)のあとがきで「ポー

ランドの砂地の底を流れる地下水には、血の色が混じっていると見えるかもしれない」と書いたときにも、このカンピノス公園の印象が残っていたことを思い出す。

ゼグジェ湖の水路に停めた友人のヨットのうえのんびりと過ごそうとしていた穏やかな好天の休日の、思いもよらぬ冒険も今では懐かしい思い出だ。突然、巻き上がった突風が私たちのヨットをあっという間に湖のど真ん中に引きさらった。慌てた友人とそのヨット仲間が懸命に岸辺に着けようとするのだが、上手くいったかと思う間もなく再び湖の中央に戻されてしまう。泳げもしなければ救命具も着けていない私と、胴着は着けているが自力ではとても岸

辺に泳ぎ着けない女房にも、さながら練達のヨット仲間のように水面ぎりぎりまで体を乗り出させてヨットを操り、どうにか危機を脱出できたときには、我々を誘った二人のどんなにかほっとしたことだろう。

ところでこのゼグジェ湖のところ、かつてはヴィスワ川の支流とされたブク川がウクライナ、ベラルーシ、ポーランドと流れて、ナレフ川に合流する。何度もの民族蜂起のエートスと深く結びついたこの川の名は、ポーランド人にとって特別な感情を呼び覚ます。しかしそれだけではない。もうひとつのポーランド史―ポーランド・ユダヤ人の歴史とも深く結びついているのである。ワルシャワにたどり着く前に、この

川はポーランド最初のユダヤ人絶滅収容所のひとつ、トレ布林カの南を流れ下る。クロード・ランズマン監督の映画「シヨアー」では、もつとも早い絶滅収容所へウムの四〇万人のユダヤ人のうちで生き残ったたった二人のうちの一、スレブニクがナレフ川（これはヴァルタ川の支流ネル川の間違いなのだ）を少年の日のようにボートで下りながら、ポーランド語の歌を歌うところから始まる。

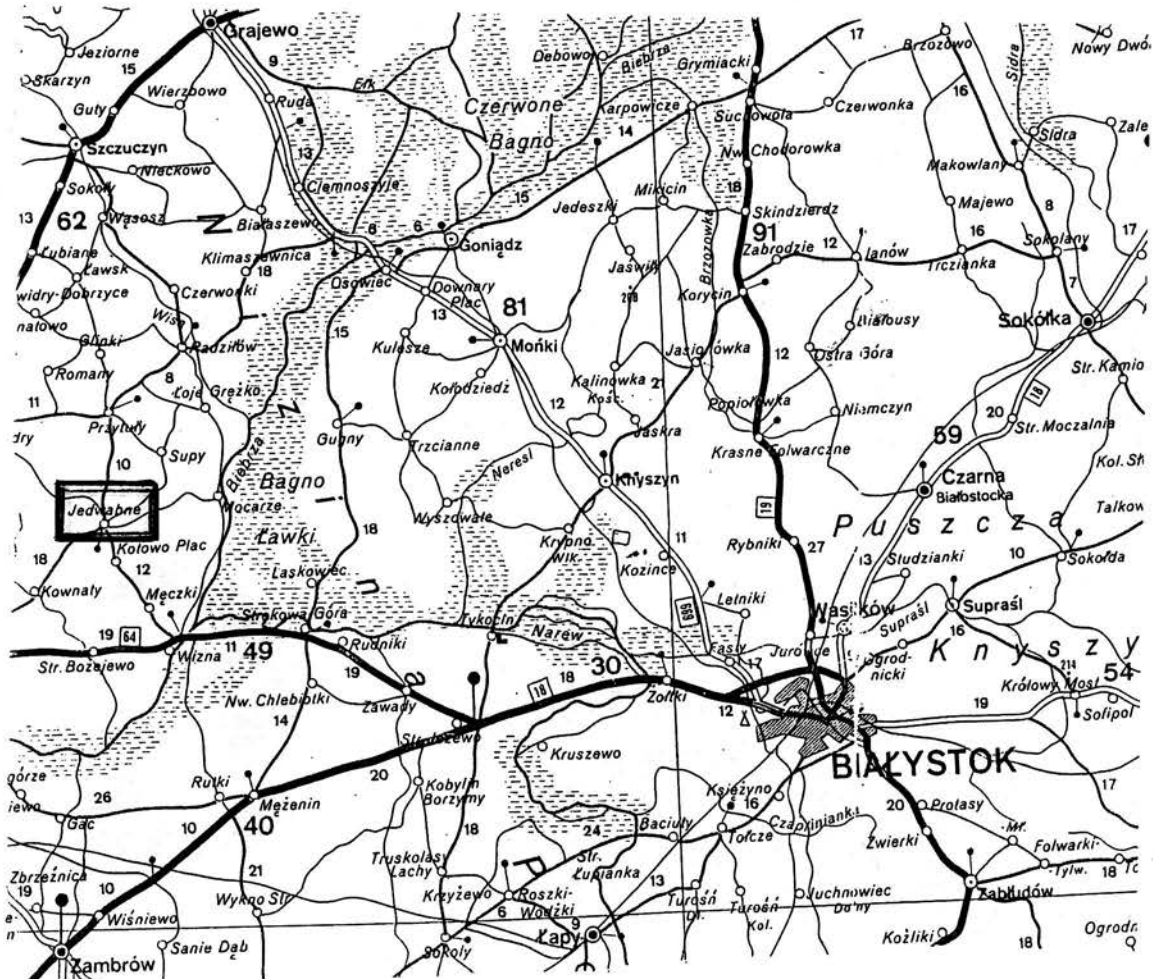
さてこのナレフ川を上流へ、ピャウイストックに向かっていると、ウオムジャの町の北東約二〇キロに私のこれからの物語の舞台となる人口わずか二千人の町、今やポーランドばかりか、世界中に知られることになったイエドヴァブネ（この地名は「絹の」の意味を持つ）がある。これまで主としてポーランドの地で行われたユダヤ人の絶滅の責任はもっぱらナチス・ドイツに帰せられてきた。ところが昨年、ニューヨーク大学の教授、ヤン・トマシユ・グロスが著した一冊の本『隣人たち』は、一九四一年七月一日、この町の一六〇〇人のユダヤ人住民を納屋に閉じ込め、生きたまま焼き殺したのはナチス・ドイツではなく「隣人」であるポーランド人住民であつ

たことを明らかにして、全世界に騒然たる論議を巻き起こした。ユダヤ人絶滅に対するポーランド社会の責任が問われることになったのである。いったい何が起こったのか。

次回から、九世紀余りにわたってポーランドとポーランド・ユダヤ人が築き上げてきた歴史を振り返りながら、イエドヴァブネの出来事が持つ意味を考えてみたい。

（こはら・まさとし）

東京外国語大学外国学部



2001年北海道ポーランド文化協会主催

ポーランド旅行のご案内

ポーランド旅行の詳しい日程と費用の概算が決まりましたのでお知らせいたします。

前号でお知らせした時より円安になったため高くなっております。ご了承下さい。

旅行期間 8月30日(木) - 9月9日(日)

旅行費用 35万円(東京発の方々は38万円) (一人部屋追加代金 7万7千円)

ポーランドやハンガリーの初秋の季節を存分に味わっていただけるものと思います。

同封の参加申込用紙でお申し込み下さい。なお、トルン(OP)は時間の都合で中止します。

申込み締め切り 6月20日(前回申込された方はいりません。)

【日程】

8月30日	pm 2:00 千歳空港発 pm 21:25 ワルシャワ着	ワルシャワ泊
8月31日	ワルシャワ市内観光 午後ジェラゾバボラ(シヨパンの生家)見学	ワルシャワ泊
9月1日	ワルシャワ発(汽車) ----- クラクフ着 クラクフ市内観光	クラクフ泊
9月2日	ヴィエリチカ見学 希望者にはオシフィエンチム(アウシュヴィッツ)見学 クラクフ発 ----- ザコパネ着	ザコパネ泊
9月3日	ザコパネにてハイキング 山岳民族舞踊を楽しみながら夕食会	ザコパネ泊
9月4日	ザコパネ発 ----- ハンガリー・ブダペスト着	ブダペスト泊
9月5日	ブダペスト市内観光	ブダペスト泊
9月6日	エステルゴム, ヴィシェグラード, センテンドレ観光 スロヴァキア・ブラチスラヴァ観光	ブラチスラヴァ泊
9月7日	ブラチスラヴァ発(水中翼船) ----- ウィーン着 ウィーン市内観光	ウィーン泊
9月8日	am 10:55 ウィーン発	
9月9日	am 7:20 千歳着	

【オプション】

オシフィエンチム(アウシュヴィッツ)の見学(グループで6万円程度)

参加希望の方は同封の申込用紙を下記の小笠原までファックスまたは郵送してください。

=====

小笠原 昭子

069-0851 北海道江別市大麻園町28-18

Tel : 011-386-3405

Fax : 011-387-9016

e-mail : Akiko.Ogasawara@mb6.sekyou.ne.jp

=====

「パン・タデウシユ物語」の 見どころ

三浦 洋

ポーランド映画の巨匠、アンジェイ・ワイダの最新作「パン・タデウシユ物語」がいよいよ札幌にやってきました。六月十六日（土）から二十二日（金）までの一週間、札幌のシアター・キノで上映されるのです。ポーランドでは国民の三分の一が見たと報じられる大作だけに、見逃せません。

原作は、ポーランドの大詩人アダム・ミツキエヴィチが一八三四年にパリで出版した長篇叙事詩「パン・タデウシユ」。ミツキエヴィチはシヨパンのバラードに影響を与えた詩人ですから、音楽ファンにとっても一見の価値あります。内容はリトアニアとポーランドの歴史を背景に人間群像を描く大河ドラマで、ワイダ監督自身が日本の時代劇「忠臣

蔵」に似ていると語ったそうです。二時間三十四分の映画ですが、そのあら筋と見どころを紹介しましょう。

二つの貴族の対立

舞台は一八一〜二二年のリトアニア。ロシア支配下の農村で、二つのシュラフタ（貴族）が対立していました。ロシアに協力的なソプリツァ家（判事）と、独立志向のホレシユコ家（伯爵）です。両家の間には過去に陰惨な事件があり、それが誤解を招いて激しく憎しみあっていました。しかし両家は、祖国のために大同団結しなければならぬことに次第に気づいていきます。相克を経て、ナポレオンがモスクワ遠征す

る頃に両家が和解するまでの展開がストーリーの中心です。

しかし、なんといつても心に残るのは二人の名優です。ヤツェク・ソプリツァを演ずるボグスワフ・リンダと、ホレシユコ家の家臣ゲルヴァズィを演ずるダニエル・オルブリフスキ。両家の過去を背負う二人の、苦渋にみちて渡り合う人間ドラマが、この映画の最大の見どころといえるでしょう。単に歴史のエピソードで話題を集めるのではなく、ポーランド映画人の総力で勝負しようとするワイダの情熱がひしひしと伝わってきます。

婚礼のポロネーズ

ところで、題名の「タデウシユ」はソプリツァ家の若者の名です（「パン」は敬称）。映画のラストはタデウシユの婚礼で、このシーンに流れるポロネーズは現代ポーランドの作曲家ヴォイチェフ・キラルがこの映画のために作曲したそうです。どこか古風で、しかも祝祭的な雰囲気のある舞曲に仕上げられているのは見事です。原作者のミツキエヴィチは、物語の大団円となるポロネーズの場面に約二百行を費やして細かに描写していますから、ワイダとキ



アダム・ミツキエヴィチ
(一七九八〜一八五五)

ラルの努力を知ったら感激することでしょう。なお、婚礼シーンには監督のワイダ自身が端役で少しだけ登場します。

また映画の冒頭では、ポーランドの国歌となっている「ドンブロフスキのマズルカ」がさりげなく古時計から流れます。マズルカ、ポロネーズ、白馬といったワイダ作品になじみの道具立てが横糸だとすれば、「五月三日憲法」、リトアニアとポーランドの再団結、ナポレオンのモスクワ遠征といった歴史のエピソードが縦糸になってうまく織り合わされています。

ワイダ監督の希望

パリに亡命したミツキエヴィチ自身が映画に登場して「パン・タデウシユ」を語って聞かせるという設定

も魅力的です（ミツキエヴィチ役はクシシュトフ・コルベルゲル）。ただし、「リトアニアよ、わが祖国よ」で始まる有名な序詩（インヴォカツイヤ）は最後に読み上げられません。リトアニアの美しい田園風景に重ねてミツキエヴィチが序詩を読み上げるといふエンディングには、きつとワイダの希望が託されているのでしよう。

字幕は二人の日本人によるものですが、その一人の工藤幸雄氏は一昨年、「パン・タデウシュ」の邦訳を刊行しました（講談社文芸文庫、上下巻）。もう一人の久山宏一氏はミツキエヴィチの研究者ですから、この映画が日本に迎えられる環境も整っていた感じですが、

個人的な感想をつけ加えますと、セリフの中に何度か出てくる「共和国（ジエチポスポリタ）」という言葉は、なかなかニュアンスが伝わりにくいと思いました（もちろん訳語としては正しいのですが）。リトアニアとポーランドが団結する展開を考えると、いっそのこと「俺たちの国」とでも訳した方がよい場面もありました。

第43回例会

ポーランド映画を楽しむために

「パン・タデウシュ物語」講演会

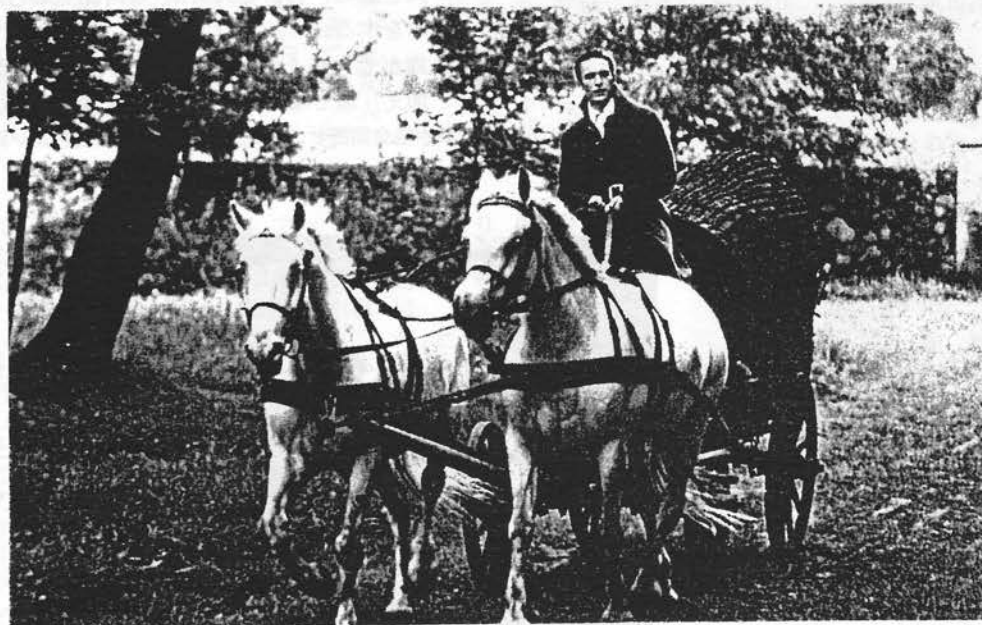
アンジェイ・ワイダ監督の最新作「パン・タデウシュ物語」（原作：アダム・ミツキエヴィチ）が札幌で公開されるのに先立って、映画の内容を紹介します。ポーランド人留学生から、詩人ミツキエヴィチの魅力も語ってもらう予定です。

日時 6月14日（木）午後6時30分

場所 札幌市女性センター 第3研修室
（札幌市中央区大通り西19丁目）

解説 三浦 洋

会費 無料



第42回例会 ポーランド料理を楽しむ会を終えて

講師 マジエーナ・ティムチョさん



しばらくお休みをしていたポーランド料理講習会を3月31日に開きました。

講師はポーランドからの留学生、マジエーナ・ティムチョさんです。

参加者は23名、男性の参加者がたくさんいてほしいと思ったのですが残念ながら会員の富山さんだけ。お料理が出来上がって試食という時に、マジエーナさんの旦那様がとび入りで参加されました。

メニューはジャガイモ料理2種とサラダでした。身近にある材料なのにふだん私達が作らないお料理を作ったことは、レパトリーを拓げるのにとっても役立ちました。味も大変おいしく、楽しい会でした。当日のレシピより1つを、下に御紹介します。(斎田)

じゃがいものニョッキ肉ソース添え

Kopytka w sosie mięsny

【材料(4人分)】 じゃがいも 1kg

(コペトカ) 小麦粉 400g

卵 1個

塩 少々

(ソース) 4人分 豚肉赤身 200g

ベーコン 50g 玉ねぎ 1個

水 700ml 小麦粉 小さじ1

クミン小さじ1/2 月桂樹の葉 1枚

塩・こしょう

【作り方】 (コペトカ)

- 1 じゃがいもは皮をむいて、柔らかくなるまで茹でる。
- 2 茹でたじゃがいもをつぶす。
- 3 卵 小麦粉と塩を加えて、混ぜ合わせる。
- 4 その生地です直径3cm位の棒を作る。

5 斜めに1cm位の形に切る。

6 大きめの鍋に熱湯を沸かし、その中にコペトカを入れる。

7 表面に浮かんできたら、お湯から取り出す。

【作り方】 (ソース)

1 肉とベーコンは、小さなサイコロにきる。

2 ベーコンを鍋でいため、細かくきざんだ玉ねぎを加えてきつね色に焼く。

3 2に肉を加え、さらにいため、水を肉がひたひたつかるぐらい入れ、煮立てる。月桂樹の葉、塩を加える。

4 火を弱め、およそ30分から1時間煮込む。時々差し水をする。

5 肉が柔らかくなったら小麦粉を振り入れ、クミンを加え、塩で味付けをしてさらに数分煮込む。

(日ボ協会関西センター ポーランド料理教室レシピより)

「ポーレ」編集委員会
小笠原正明・斎田道子
佐々木保子・高岡美保
三浦洋
〔連絡先〕 621・1738
(斎田)



マジエーナ・ティムチョさんから作り方を教わる参加者たち

POLE 第 48 号(2001.6.1) 目次

小原雅俊「知られざるポーランド(1)」	1
ポーランド旅行(2001.8.30～9.9)のご案内	3
三浦洋「ポーランド映画を楽しむために～『パン・タデウシュ物語』の見どころ」	4
〈第 43 回例会〉講演会「パン・タデウシュ物語」(解説:三浦洋、2001.6.14)のお知らせ	5
齋田道子「〈第 42 回例会〉『ポーランド料理を楽しむ会』(2001.3.31)を終えて」	6